

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成21年3月17日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了15時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームもも太郎さん坂下 (福島県)
-------------------	----------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>内川礼子</u> ヒアリングを行った職員数 (1)人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0792600025
法人名	株式会社ジエイパック
事業所名	グループホームもも太郎さん(坂下)
所在地	福島県河沼郡会津坂下町大字見明字古屋敷771-1 (電話) 0242-83-3000
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成21年3月17日

【情報提供票より】(平成21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤6人, 非常勤1人,	常勤換算7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (2月 28日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1	要介護2	6
要介護3	1	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 64 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂下厚生病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業】

昨年の4月に開所された丸1年のホームである。居室もリビングも広々とし開放感のあるつくりになっている。大きな仏壇やたんすを2棹持ち込んでいる家族部屋もあり利用者は我が家のような生活を送っている。職員のチームワークもよく利用者の笑顔を引き出すケアに努めている。2年3年後が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 初めての自己評価・外部評価で戸惑いがあったがカンファレンスや少しの時間を利用して自己評価の項目を話しあい管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 8月から2ヶ月に1回定期に開催されている。サービス内容や、利用者や家族から出された要望や苦情の報告、自己評価の報告、地域交流についてなどホームの生活の様子が話し合われている。委員からは地域の情報を伝えてもらったり地区選出委員には帰宅願望の強い人の対応など相談にのってもらえている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会者には必ず職員から話しかけている。その際本人がホームにたいする思いや要望など家族に伝えていないか意識的に聞くようにしている。食事の要望や家族への連絡の仕方など改善につなげている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	区費を支払い地域の一員として地域から認知されようとしている。折々のホームの行事に老人会や子ども会の会員が参加し交流をしている。民生委員や地区住民に相談することもあり今後の地域との連携が期待される。

2. 調査報告書

主任調査員氏名 熊谷まゆみ / 同行調査員氏名大野恒夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分だったらこうしてほしいという思いを職員で出し合って「家族・地域との絆を大切にし穏やかで笑顔あふれる生活を送れるよう支援します」の理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・事務所・リビングに理念を掲示し誰にでも目に付くようになっている。引継ぎ時に理念を唱和し意識付けを行っている。理念の実践面での具体化をどうするか模索中である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を払い地域の1住民となっている。ホームの折々の行事に老人会や子ども会を招待し交流している。区の推薦で運営推進委員も1名選出されている。4月の区会に参加の予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について職員は理解している。週2回のミーティングや日々の業務の中で自己評価について繰り返し話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催しサービス内容、意見、苦情、自己評価、地域交流などについて報告、話し合い、地域の情報交換や意見交換がされている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真入の近況報告を毎月行っている。受診結果は受診した際受診記録簿に記入し電話で家族に連絡している。お金は預かっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり行事の際などに集まり意見交換の機会がある。面会時必ず職員が家族と話し、家族に話した本人の思いを聞き出すようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った場合は経験者と一緒に行動をともにし利用者との関わり方も現場で覚えてもらい自然に利用者とは接するように指導している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画はないが外部研修に参加している。外部から研修資料を取り寄せミーティングや回覧ファイルで内部研修をしている。スキルアップのための法人の助成がある。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し研修会に参加し情報交換を行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>畑仕事や折々の伝統行事について教わったり、調理を手伝ったりしてもらっている。反面、ここでは何もしなくて良いという人、周りの人の目を気にしてやらない人にどう得意分野で力を発揮してもらおうかが課題と思われる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部が取り入れら「私の姿と気持ちシート」を作成している。日々の係わりの中で把握した気づきや情報は業務日誌の特記事項に記入し共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスで介護計画について話し合っているが支援内容が利用者すべてに適応する支援内容で個々人のニーズにあったものにはなっていない。	○	本人、家族、職員で話し合い個々人その人のニーズに合った支援計画を作り日々の実践に計画が活用されるようにして欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、計画作成者と担当職員らとで毎月カンファレンスを行いモニタリングをし介護計画をみなおしている。本人や家族の要望や意見も聞いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医が継続されている。職員同行で受診しているが受診記録簿を作成し内容を家族に報告している。家族同行の際は必要な情報を交換しあっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの必要性を感じているが話し合いはしていない。	○	家族、職員、法人で話し合い、勉強会をするなどして重度化や終末期に向けたケアのあり方について方針を作成して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	ホームでの呼び名は利用者の希望する名前で呼びプライバシーを損ねるような対応は見られなかった。個人ファイルは事務室で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間はそれぞれで個々人のペースで生活している。日課は特になくその日過ごしたいように過ごしている。食事やおやつを居室で食べる人もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら作成し、できる人には調理の準備や後片付けを手伝ってもらい利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前、午後、夜、と好きな時間に毎日いつでも入浴できる。入浴拒否はないが事情で入浴できない方には足湯を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	畑仕事や花作り、神社への散歩など楽しんでいる。野菜の収穫や調理のための野菜カットや配膳などの役割がある。新聞を読むのを楽しまれている利用者もいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的な散歩や買い物だけでなく、帰宅願望の利用者には自宅を訪問したり、お彼岸の仏様拝みなど個々人の外出支援をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていない、建物のづくりも開放的である。近所の方からは利用者が1人で外出した場合の捜索などの協力の声掛けがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町の防災訓練に合わせて避難訓練を一回やっているが記録がなく内容が不明瞭である。	○	消防署の指導のもと近所の方と一緒に夜間想定で実施し記録や講評も残し訓練の積み重ねをして欲しい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎食把握し記録している。夜間は各居室に水のペットボトルを置き摂取しやすいよう工夫している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く明るく不快な音や臭いはなかった。台所と対面式の調理台で利用者と触れ合いながら調理ができる。居間には花やソファや新聞があり利用者がそこになじんでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはテレビとトイレがあり1人でゆっくりと過ごせる空間になっている。なじみの家具や写真、仏壇が持ち込まれていた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム もも太郎さん坂下

記入担当者名 管理者 内川 礼子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。